

共同礼拝

2024年11月10日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 市橋佳子

前 奏
讃美歌 こどもさんびか8
主の祈り
信仰告白 使徒信条
讃美歌 こどもさんびか 14
聖 書 マタイによる福音書
17章24～27節(新34)
祈 り
説 教 「不思議な献金」牧師 高橋和人
祈 禱
讃美歌 こどもさんびか61
献 金
祈 り
讃美歌 こどもさんびか17
頌 栄 こどもさんびか16
祝 禱
後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

11月の祈り

主にある収穫を覚え、見えないものに向けられている主の守りと導きを知ることができるように。

時が良くても悪くても、礼拝と御言葉の恵みを確かめ、そこに生きることができるように。

教会に連なる子どもたちが祝福され、心も体も健やかな成長が与えられるように。

高齢や一人暮らしの兄弟姉妹が支えられ、互いに覚え合い、祈り合うことができるように。

紛争の地に平和がもたらされるよう祈りが力づけられるように。

今日の祈り

子どもとおとなの合同礼拝が祝されますように。

教会学校、幼稚園の子どもたちが神に出会い、救いに与ることができるように。また教会の次世代を担う青年が神を知り、信仰へと導かれるように。

幼稚園の歩みが力づけられ支えられるように。

「不思議な献金」 高橋和人

マタイによる福音書 17章24～27節
ペトロはイエス様に自分の家に一緒に住んでもらうようにしていました。いつもイエス様のお話が聞きたいし、イエス様の役に立ちたいと思っていました。ごはんも一緒に食べられます。イエス様がおうちにいるなんて、どんなに素晴らしいことです。

ペトロの家はガリラヤ湖という湖の側のカファルナウムという町にあります。イエスさまはペトロの家から出かけて行って、たくさんの人にお話をし、病気の人を治し、悪霊を追い出してくださいました。町の人みんなイエス様を知っています。

あるとき、ペトロの家に神殿税を集めに来た人がいました。神殿税というのは、エルサレムの町にあ

る大きな神殿に捧げられる献金です。

普通の献金とは違っていました。それは年に一回だけ、おとなの男の人だけ、そして、金額も二人で銀貨一枚と決まっていた。お金持ちもそうでない人も同じ金額です。

そして、この献金は集める人がちゃんとノートを持って来て、だれが納めたかのかを書いて行きました。だから税と言います。この献金は神様から命を頂いたし、そして自分たちの王様は神様だというしるしです。だからみんな同じに払います。

そして、二人で銀貨一枚なので、兄弟や友達と一緒に捧げます。一人でなくて献金の仲間がいます。

イエス様は普段はお金が必要ではありませんでした。財布はイスカリオテのユダが持っていました。イエス様は周りの人たちと何でも分け合います。だから、あまりお金も要りませんでした。

献金を集める人はペトロに「先生は献金しないのですか」と聞きます。ペトロは納めますと言って、家に入ってきました。

イエス様はペトロにこの世の王は誰から取り立てるか、自分の子どもたちからかほかの人からかと聞くと、ペトロは他の人たちからだと答えます。イエス様は子どもは納めなくてもよいわけだと言われましたが、勘違いされないようにしました。

ペトロに「湖に行って釣りをしなさい、いちばん最初に釣れた魚の口に銀貨が一枚入っているはずだから、私とあなたの分として納めなさい」と言われるとそのとおりになりました。

神様が用意してくださいました。わたしたちの捧げものは、もともとは神様から頂いたものです。イエス様はわたしたちも神様の子どもにして、いつも神様の恵みを教えてくださいます。